

に、ときには誤読にもつながることになる。書きの学習の到達目標が、文字言語を主体的に操作し、自由な表現活動ができるようになることであるという点からみても、分かち書きと切れ続きの原則は、読みの学習の場合と同様に大切な内容であり、習熟のための丁寧な指導が必要である。(第6章「点字表記法の体系的学習」参照)

【題材 5 - 6】

「昨日の出来事を書こう」

〈ねらい〉

自分が直接経験したり感じたりしたことを、分かち書きを意識しながら簡単な文章で書き表すことができる。

長音・促音・拗音などの正しい表記を身に付ける。

〈内容〉

ア 昨日の出来事を思い出し、発表する。

イ 発表した内容を文章として書いてみる。

【留意事項】

ア 3マス目から書き出すことを習慣づける。

イ 分かち書きを意識づけるために、書き出す前に書きたい内容をマスあけごとに区切って実際に声に出してみるとよい。ここで文節分かち書きの意識を養うようにする。

ウ 数字、アルファベットなどを用いる場合は、表記の仕方をその都度説明し、正しい表記の定着を図る。

エ 正確に間違いなく書くことはねらいではあるが、自分の経験したことを楽しみながら書くなかで、点字が書ける喜びを感じることを大切にす。

第5節 文の構成と表記符号の学習

墨字では、文章表現の内容を豊かにするために、句読法をはじめ、様々な体系の記号や符号類が用いられている。これらの多くは視覚的要素を含むため、点字化の際には、触読の特性を考慮したうえで、墨字との対応を図ることが必要となる。このため、点字で表記符号を用いる場合には、目的と必要に応じた使い分けが必要である。

また、文の読みやすさの関係から、「行移し」の規則についても理解することが大切である。(第6章「点字表記法の体系的学習」参照)

【題材5-7】

(1) 「学級日誌を書こう」

〈ねらい〉

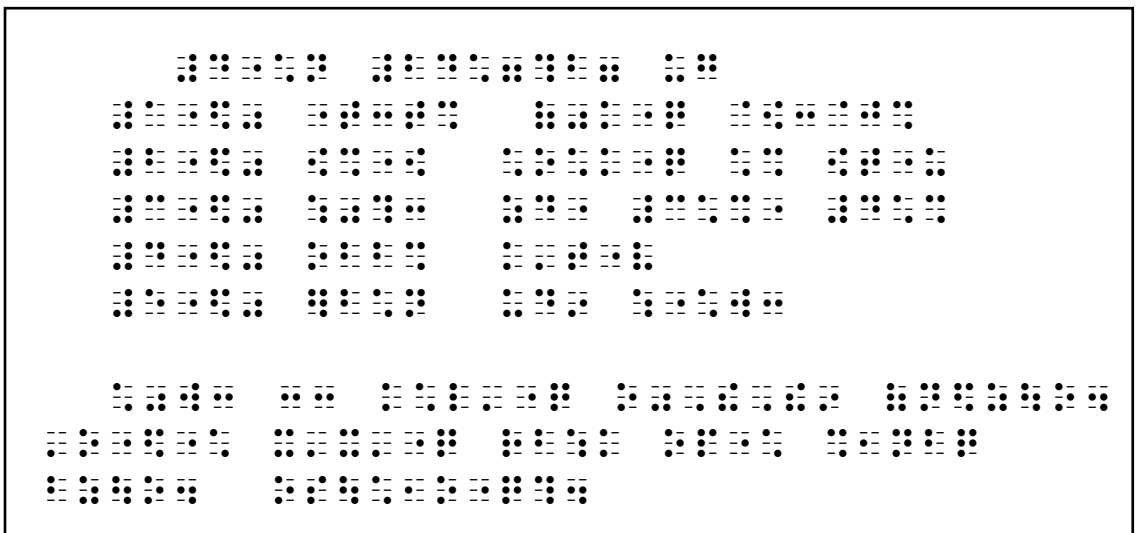
日付、曜日、時間割と内容、感想を記した学級日誌を書くことができる。

〈内容〉

ア 書き出し位置に気をつけ、日付(数符)・曜日(第1かっこ)などに符号を使用し、分かち書きや切れ続きに留意して実際に書く。

イ 自分が書いた学級日誌を読んで確認する。

【学級日誌の書き方の例】



【留意事項】

ア 書き出し位置、マスをあける箇所、基本的な仮名遣いなど、日誌の内容に即して説明する。

イ 学習の発展として、教科書や好きな図書(できれば何回も繰り返し読んでいる図書)の転写(触読写し書き)練習を行うとよい。

ウ 表記符号が二つ以上重なる場合、表記符号間の優先順位を考慮する必要があるが、このことについては、具体例で指導する。

(2) 「一続きに書くものを覚えよう」

〈ねらい〉

行移しをすることができない場合があることを理解し、規則に従って正しく書き表すことができる。

〈内容〉

ア 数字やアルファベットなどの前置符号、二マスで構成されている文字、二マス以上で構成されている表記符号を用いた資料に従って、それぞれ誤った行移しを行うと、意味をなさなくなることを確認する。

イ 行頭に書くことのできない表記符号を覚える。

ウ 行末に書くことのできないものを覚える。

【留意事項】

書いている行の残りが何マスあるか、点字タイプライターのベルの音や点字盤の定規のマス数を手掛かりにするとよいことを指導する。